

総務文教委員会記録

令和3年2月1日（月）
11時10分～12時15分
第1委員会室

- 【委員】 西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
- 【委員外】
- 【議長団】
- 【事務局】 下間書記

【議題】

- 1 【取組課題】 こどもの可能性を育む幼児教育について（委員間で協議）

2 その他

【議事の経過】

[11 時 10 分 開議]

西村委員長

ただいまから総務文教委員会を始める。引き続き幼児教育にかかるアクションプランについて行う。

1. 【取組課題】こどもの可能性を育む幼児教育について（委員間で協議）

西村委員長

説明を始めたい。6稿と7稿がお手元に配信されていると思うが、7稿で話を進めていきたい。

まず1ページ目一番上の「浜田市の幼児教育に関する方針や計画の現状について」の中では、少し変えた部分だけ横線を引いている。「理念を掲げ」のところを括弧して、「理念の実現のために」。これで十分通じると思う。

（以下、資料をもとに校正点を説明）

牛尾委員にお願いしたいのは、この20年くらいの幼稚園統廃合の歴史をまとめてほしい。これとは別に資料として。

牛尾委員

これは早く出さないといけないのだろう。

西村委員長

皆がわからないのではないかと。思って。

牛尾委員

ざっくりばらんに言えば自信がない。これはなるべく早い時期に渡すのだろう。こらえてほしい。

西村委員長

ならば私がつくる。今までの流れがわかるだろうか。原井幼稚園の前も、日脚幼稚園の件があるだろう。

牛尾委員

大体、原井幼稚園のときに行革の中で幼稚園統合問題が出て、教育委員会の中で原井幼稚園がターゲットになった。それが平成20年ころだったか。いろいろな答申が出て。

西村委員長

幼稚園の園児数は皆もらっているか。大きな流れとしてはせめて合併以降。

西村委員長

皆が必要ないというならよいが、私はあったほうがよい気がした。

牛尾委員

もっと歴史はあるのだが。しかし原井幼稚園くらいのときからいけばよいのでは。

西村委員長

これで大丈夫ということであればよい。

牛尾委員

原井幼稚園統合のときに反対運動が起きて、結局統合をやめて新園をつくるべきだということで一旦流れた。それで新規採用の職員をあそこで起こした。その前から全部書いたほうがわかりやすいといえればわかりやすい。行革からそういうことが発生しているのだから。とにかく、全国ワースト5位で第2の夕張になるのではないかという背景の中で、行革でいろいろなことが出てきて行革をしてきたわけだから。

西村委員長

結局、幼稚園の方針はころころ変わっている。何か方針が出そうなときに、今度は子ども子育て新法ができるからもう少し待つという話が出たり。

牛尾委員

ここ20年くらい教育委員会も、都度流されている。原井幼稚園が9,000人くらい集めたときに、当時の市長が統合はできないと掲げた。本来、客観的に統合に進まなければいけないのなら、そういうものがあるだろうが

あるまいがやっていかないといけないのだが、そうではなく都度、私に言わせれば場当たりのである。

西村委員長

2ページまで説明したと思う。ここまでのまとめ方としてどうか。意見を出してもらって、それが終わり次第、統合問題に戻りたい。

三浦委員

(1)の②の幼児教育センターの業務内容は、個人的にはもう少し整理されたほうがわかりやすいと思った。

西村委員長

どういう視点で、どのように。

三浦委員

まず大きく分けるとおそらく研究開発という項目と、研修という項目と、アクションプランに基づくサポートをするのがこのセンターだと思うので。

西村委員長

研究と。

三浦委員

研究だけで終わるともったいない気もしている。研究をして開発もしてほしい。だから、幼児教育及び浜田らしい幼児教育プログラムの研究開発をするというのが一つ。そうでないと具体的に園に行ったときに、助言ができないと思う。研究して考える、開発と言うと大きいかもしれないが、社会教育施設の活用が後段に出てくることを踏まえると、研究開発という項目で1本立てる。

もう一つは、研修というのが幾つか出てくるが、この研修も対市内保育所・幼稚園といった施設と、社会教育施設・公民館・美術館・博物館・図書館など連携先、あとは全体でやるのもあるだろうし、このセンターの職員自体の研修というのも書かれている。これは自助努力としてやるということで、ここの項目からは外すのか、それともやはり入れるのか、入れるのであれば対象者が違うが幾つかの研修、学びというのが2本目の大きな柱としてあるのかと。

もう一つは、研究・研修だけではなくアクションプランに基づいて推進普及させ、それを推進していくという大きな役割がある。

大きく分けるとその3本の柱を立てて、それぞれ整理し直すイメージ。

西村委員長

そのほうが確かにすっきりする。三つ目に言われたアクションプランを推進していくという視点で、実は前に出た意見で、特に配慮が必要な子どもに関することをここに上げたほうがよいとか、上げるべきだとかいう意見があったのだが、よく考えたらアクションプランの中にそういうものが盛り込まれているので、あえてそれを書くこと自体は二重になるという意味で、結果的に上げなかった。それを言い漏らしていたので、つけ加えておきたい。

だが、非常に重要な意見で、行く先々で聞かれた意見ではあったのだが、アクションプラン内にうたってあることなら、ここに書く必要はないと判断した。

三浦委員が言われた三つの柱で業務内容をくくって、その中にまた個別の文章化したものを入れるという案でどうか。私もそのほうがすっきりすると思ったのだが。

芦谷副委員長

その方向もよいと思うが、研究も研修もこのセンターの周知も一体である。例えば研究だけに特化すれば、何か整理して発表するみたいなこともあったりするし。もう少し違う切り口で三本柱を整理するのも一つかなと。各施設間や民間を超えた連携、ある面でいえば地域の関係もあ

るのだが。そういったことはどう考えればよいか。

実際やる場合には、現場では研究された成果、その次が研修、支援センターの周知はざっと流れる。

西村委員長

要するに、研究して実際はどこで実践するかとなれば、それは幼稚園であり保育所になるから、そういうことも入れなければいけないという意味だろう。

芦谷副委員長

はい。

西村委員長

だが、それはそこまで書かなくてもよいのでは。そういうところの協力を得てやらないと、実際には子どもがセンターにいるわけではないので。当然そうになっていくだろう。

芦谷副委員長

それでよい。

西村委員長

ほかにはどうか。三浦委員の提案した方向で再度まとめてくるということではよろしいか。

(「はい」という声あり)

1番目の柱が研究、2番目が研修。研修も幼稚園や保育所での研修と、社会教育施設に向けたものとは大別できるだろうと。それからアクションプランを具体的に推進する面での方向性。その三つの柱でやる。

その下のクエスチョン部分はカットするというのが私の提案である。カットするというのでやりたい。実際、無理があると思うので。

(「はい」という声あり)

3ページ目一番上の(2)社会教育施設や地域との連携強化という点では、これも前回あまり話し合いが進展してない部分だったように思うので、意見を聞かせていただきたい。

三浦委員

前は私の理解不足で皆に誤解を与えてしまう話をした。ふるさと郷育は社会教育課が所管するとのことだった。

そして、学校との連絡窓口として学校教育課が担当するので、ふるさと郷育という授業自体の所管は社会教育課がされるとのこと。だから市長部局に生涯学習課から移る。その中で、地域との窓口はもちろんまちづくり推進課がやるのだろうが、学校との窓口は学校教育課がやるという説明だった。

西村委員長

ふるさと郷育は社会教育課が主管。

三浦委員

この前、学校教育課がというのは、あれはあくまで窓口になるという話だったので、では幼稚園はどうなのかとなったときに、ふるさと郷育全体の所管は変わらず社会教育課がやる。しかし幼稚園になると子育て支援課もしくは教育総務課になるということ。

その誤解を整理した上で、ここの項目に例えばふるさと郷育や共育という、子どもたちへの既存の社会教育的アプローチとの一貫性を、ぜひ幼児教育過程においても担保したほうがよいのではないかと。

それに対しては具体的なプログラムだったり、前段でも出ていた「らしさ」という浜田独自のアプローチをぜひ進めてほしいということがここに盛り込まれると、ここに書いてある横断的な連携、横の連携と書いてあるが、それをもう少し具体的に、どうやってということを考えてみたのだが。そういう文言が入るとよい。

西村委員長

それは幼児教育の段階からという意味か。

三浦委員

ふるさと郷育自体はゼロ歳から18歳までとうたっている。実際に幼児教育過程で就学前にふるさと郷育の何か具体的なプログラムが行われているかということとそういうものはない。実際には園によっては、例えば石見幼稚園でいうと、隣の中学校や小学校と交流しているとか、公民館とも交流しているとかやっちはいるが、そこに具体的にお金をつけて事業をしているわけではない。だからゼロ歳からとうたっているのであれば、ふるさと郷育を浜田市が教育の柱の一つに掲げている地域教育みたいなものが、きちんと幼児教育過程にかかるのが自然な形ではないかと私は思う。

西村委員長

それが要するに、実際どうなっているかということ、目に見える形として確立されていないし、実際も行われていないことから、もう少し強化して組み入れる。幼児教育時代から組み入れてやっていくべきではないか。強化すべきということか。

三浦委員

はい。

西村委員長

それを加える形と捉えてよいか。

三浦委員

はい。全くやっていないわけではないと思う。浜田市の幼児教育というものが漠然としている中で、明確に位置づけてこうやろうということがこの中でうたわれていると思うのだが、地域との連携といったところも、幼児教育においても意識しながらやるほうが、一貫性があってよいのではないかと。それを明確に位置づけたほうがよいのではないかと。

西村委員長

了解した。では今のを1番目に加える。ほかに意見はないか。思い出したら言ってくれ。あれば戻りたい。

2番の統合問題に移って、もし宿題的な課題があれば、それを誰が担当するかも含めて決めていきたい。

1、市立幼稚園存続の考え方ということで、これは読み上げる。

(以下、資料をもとに説明)

という三つの大きな理由、根拠をのべて、市立幼稚園は、1園は今後も残すべきであるということ、まず(1)でうたっている。そして(2)で具体的にこうすべきだと、この委員会での方針案を、ここへコンパクトに書き入れたい。

とりあえず(1)で意見を言っていたきたい。

牛尾委員

考えたのだが、保育園の民営化、全部渡してくれないと受けられないという流れの中で、長浜だけは残す計画もだめになった。やはり全部民間に渡してしまうと市の考えを客観的に具現するような場所を直営で持たないことが、今振り返ってみると政策ミスだったと思う。

それを加えたほうがわかりやすいのかと思った。むしろ相手があるから書き込まないほうがよいという考え方もあろうし。

なぜ市立幼稚園を残さないといけないかは、市立保育園を残さなかったがためにという。それを弊害だといえども問題があるかもしれないが。市立保育園を1園残していたら、もっと場面は変わったのではという、ぼんやりとした感覚を持っている。

西村委員長

私は幼稚園と保育園では受けとめ方が少し違う。幼稚園はこの前意見交換の場であったように、市立幼稚園を熱望する保護者がいることを感じたが、保育所は決してそうではない。民間と市立では、かえって民間

のほうが、保護者側の要望に柔軟に応じてくれる要素が強い側面もあり、必ずしも市立保育所が必要だったという受けとめ方を保護者がしていないような気がする。これは私の受けとめ方なので牛尾委員とは違うのだろう。

牛尾委員

確かに市役所側に立てば言われる面もあるし、私も確かにそういう面で反対した。しかし、今となって考えてみると、果たしてあのときの判断がどこまで正しかったか、必ずしもあのときの自分の意見に全面賛成できないという要素を正直持っている。

しかし直営が1園でもあれば、本来保育園の中でもっとやるべきことが行われていないものもある。今は全部民間に渡しているから、保護者がどうこうということにならないと思うので。しかし本当にそれでよかったのだろうか。市は直営がないから気が楽ではあるが、全てお任せで来ている。

直営が、本来こうあるべきという模範を示すことができない中で、全部民間におんぶにだっこでやってきた。そのひずみがあると思う。

私はそう思っているので、幼稚園については、文部科学省が書いていることが実現できるような市直営幼稚園を残さないといけなく、というところへ行き着く気がする。

西村委員長
芦谷副委員長

これに対してほかにあるか。

今、言われたことで、全て民営化したことの失敗を指摘して、やはり教育における公教育の責任を訴えて、市として次代を担う子どもたちの就学前教育を、センターの機能強化も含めて進めていく。このような感じで牛尾委員が言われたように原井幼稚園のところでもよいので新設の幼稚園をつくれと、このように言ったらどうか。

牛尾委員

振り返って反省をするのはやはり行革、行革で、民間委託すれば全てがうまくいくのだというような性善説の中でずっとやってきた。

それでよかったのかということを考えないといけない。指定管理もそう。先日の三隅のゆうひパークの件でもそうだが、三セクだから委託料を削って、しかし公募にかけるときちゃんと積算しなければいけない、そうしたら1,000万円になる。それなら現在やっている三セクに渡しておけばよかった。

だから民間委託と指定管理というのは、行政にとって、体のよいコストカットの一手法なのである。それはそれでよい場合があるが、それによって違う方向へ行く場合もあるわけだから。保育園についてはそういう気が既にしている。だからそれをうたいたい。ゆうひパークも最初に受けたところは気の毒だ。

芦谷副委員長
牛尾委員

今までの反省に立ってこう進めるというのを、追記したらよいのでは。

反省しなければいけない点がいっぱいある。民間委託が全てだから委託しないといけないということで、行革という名前の中で、一方で大きなものを失ってきた過去もあるのかなど。だから指定管理の曲がり角ということは結構出ている。

西村委員長

この前の保護者の市立幼稚園についての声の背景にあるのは、多分そういう、働く人の労働条件の要素は非常に大きいのではとも思う。

牛尾委員

認定こども園に行ったが、これは違うなと思った。細かいことは言え

ないがそういうところだろう。こういうところへ自分の子どもを預けたつもりはないのだと。

西村委員長

だから保育所と幼稚園はどこが違うのか、という受けとめ方をあの保護者はされたような言い方に聞こえた。

牛尾委員

だからといって保育園が悪いわけではないのだが、やはり全部民営化してしまったから、本来保育園があるべき姿というのがあるとすれば、それが直営でそういう姿を見せる場がなかったのだろうし。

何度も言うが、全部民間に渡してもらわないと職員の処遇が違うから損だという声が出る。逆に言えば市民にとっても都合がよかったという一面はある。どこかにしわ寄せや犠牲がある。

西田委員

過去には市の財政的な都合で行革せざるを得なかった。行革といえば感情抜きで要するに数字の組み合わせである。今ある予算をより効率的に組み合わせるために、いろいろな現場が統廃合されていった。予算を組み替えられていった。それが結局、行革である。

我々がこの委員会で議論しているのは、何でもかんでも予算を組み合わせさせて効率よくして行革して浜田市が存続すればそれでよいか。浜田市の存続が一番大事ではあるが、もっと大事なのはやはり思いである。

保護者にも熱い思いが皆ある。現場の思いがあって、現場の思いをどれだけ行政が組み入れるか。思いと思いのぶつかり合い。思いと思いの組み合わせ医。我々総務文教委員会は、これからの浜田市の将来を考えたとき、幼児期の重要性を改めて勉強している。就学前のもろもろの経験がいかに大事か我々も身をもって勉強している最中である。

そういう意味では、保育所、市立幼稚園、保育士と幼稚園教諭の違いもある。保育士と教諭の違いは何かとなると、かなり教育が入ってくる。浜田も行革で統廃合を進めているが、何でもかんでも統廃合ではなく、幼児のための幼稚園存続は、かなり重要なので、1園は存続させねばいけない、ということ議論している。

思いが行政側に伝わるか伝わらないかだけのことだと私は思う。行政側に幼児期は大事だ、それなら就学前のふるさと郷育の予算をもっとつけなくてはいけない。小中学校のふるさと郷育の予算をもっと増やさなければいけない。教育委員会の総合予算ではなく、幼児期、就学前、就学後の子どもたちの大事な体験予算をどれだけ増やそうか。そこは行革とは離れたものではないかと私は思う。

教育は行革とは関係ない。どのような状況になっても子どもにかかる必要最低限の予算は確保しないとだめである。これは浜田の将来にかかわる。

牛尾委員

上杉鷹山の米百俵の精神である。

西田委員

過去のいろいろな歴史上人物、浜田にも勉強する材料はいっぱいあるのに、それが活用されていない。ふるさと郷育も各学校に10万円のふるさと郷育予算をつけるだけで、やっていることになるのか。それと併せて、就学前のふるさと郷育予算を市でもっと出すべき。思いがないから簡単に統廃合もされるのである。担当が数年でかわるならそこまで思いはない。とことん、子どもたちに熱い思いを注ぎ続けるのだとなれば、もっと本気になっていろいろなことを考えてもらいたい。

幼児教育センターの所長も、やめた誰かが行くというのではなく、本当にそれにふさわしい人を皆で選ぶ。

本気になってやらないと、教育とは名ばかりである。教育には熱い思いを持っていただきたい。

学校や園長、保育士、教員の皆、子どもたちへの熱い思いがあって、子どもとのコミュニケーションでそれを直接やり取りされるので、子どもたちはそれを見ながらいろいろなことを感じていく。幼児期にもっといろいろなことを感じてほしい。そういう環境をつくってあげないといけない。だから予算を本当はもっとつけてあげないといけない。

牛尾委員
西田委員

幼稚園教諭の思いが生かされていない。

思いがあっても、やりたいことがあっても、子どもたちにこうしてやりたいというものがあってもそれができない何かがある。それが予算なのか何なのか。そういう弊害を全部取っ払って、我々は委員会としてそういう提言ができればよい。シンプルでもよいから、そういう提言がしたい。

三浦委員

西田委員の思いを聞いて、幼児教育の魅力化をこの委員会でそもそも扱おうという話になったときには、先ほどおっしゃったようなところを共有して始まったと思う。

そうすると、もちろん順を追ってきれいに整理もできてきてはいるのだが、提言なので具体的にしたほうがよいと思うのだが、そうした思いを一番持ってくるならば、今は「幼児教育振興アクションプランの策定について」というタイトルなので、アクションプランの策定が提言の主のようになっている。

西村委員長
三浦委員

サブでもよい。

これをサブに持ってきて、例えば西田委員が言われたようなことを核に据えて、その中で、幼児教育センターをつくるときには、そういうことを考えるならセンターはこうあったほうがよい、社会教育施設と地域の連携はこうあったらよい、だから公教育としての公立幼稚園はこうあったほうがよいという、多分この三つだと思う。

そして、アクションプランの策定については、例えば、幼児教育センターのところでプランの実践というのが、整理する中で出てきたので、センターをつくるなら開設するときにはアクションプランができてないのだめだとしてあるので、センターの下にアクションプランの策定についてはこうこうで、いつまでにしっかりつくってくれと。

要はアクションプランをつくることを前面に出すのではなく、それを入れかえるほうが、委員それぞれが持っている幼児教育に対する思いがより前面に出て、まとめ方としてはきれいになるのではないかと思った。

西村委員長

よくわかったし、タイトルとの関係でいえば、それでよいのではないかと思う。それで、私から皆に提案したいのは、要するに、今問題にしている市立幼稚園存続の考え方。

どうしても市立幼稚園は必要なのだと。現実問題としてはここが一番の骨格になる。そうした場合に今の議論を聞いていて、皆に宿題としてお願いしたいのは、どうして自分は市立幼稚園が必要だと思うのか。それをここに入れ込むような思いで、次までに書いてきてほしい。皆にその

思いを披露していただき、(1)と。したがって統合方針としてはどうかというのを、それをもとに次回はここをメインにして話し合いたい。皆はどうか。

芦谷副委員長

今の件、口で披露してもらってもわからないので、事前に文章で出して整理してもらったほうが、説明もしやすいし理解も早い。

西村委員長

なぜ市立幼稚園の存続が必要だと思うのか。自分の思いを。それを皆で話し合って最終的にこのようなまとめにしようということになれば、そのようにしたい。

先ほどのタイトルとの関係は、そのような方向で少し考えてみる。うまくまとまれば。

三浦委員

先ほどの発言は文章にして委員長に送る。

西村委員長

そうしていただけると助かる。

2 その他

西村委員長

次回の日程だが。

《 以下、日程調整 》

それでは次回は2月15日(月)の13時半からとする。よろしく願いする。以上で総務文教委員会を終了する。

[12時 15分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ⑩